

「旭川市エイズ等対策推進懇談会」議事録（令和7年度）

日 時	令和7年11月26日（水）午後6時30分から午後7時45分まで
場 所	旭川市総合庁舎7階 大会議室C（旭川市7条通9丁目）
出席者	参加者9人（五十音順） 赤穂悦生氏、石田良太氏、大崎雅大氏、柿木康孝氏、上村利彦氏、久保千夏氏、 徳田桃子氏、西野興子氏、坂東裕美氏 事務局5人 健康保健部長 山口、保健予防課長 阿保、感染症対策係長 上出 感染症対策係主査 飛田、感染症対策係 櫻井
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の数	0人
議事	1 進行役の決定について 2 会議の公開について 3 報告事項 （1）エイズ・性感染症の発生動向について （2）旭川市エイズ等予防対策事業について 4 意見交換 「生と性を考えよう！通信」について
資料	資料1－① エイズ・性感染症の発生動向について 資料1－② 旭川市エイズ等予防対策事業について 資料2－① 「生と性を考えよう！通信」（中学生用） 資料2－② 「生と性を考えよう！通信」（高校生以上用） 参考資料1 旭川市エイズ等対策推進懇談会開催要綱 参考資料2 旭川市エイズ等対策推進懇談会公開規定
会議内容 (1) 進行役の決定について (2) 会議の公開について (3) 報告事項	旭川市エイズ等対策推進懇談会開催要綱第4条の規定により、柿木氏が選出された。 参加者の賛同を得て、公開会議として実施する。 ア エイズ・性感染症の発生動向について 資料1－①に基づき事務局から説明。 [参加者] ・2ページのHIV感染者及びAIDS患者報告者数の年代別割合をみると、20歳代、30歳代、40歳代の発生はあるが、50歳以上の発生はないのか。 [事務局] ・本市に届出があったのが、20歳代、30歳代、40歳代だけであり、それ以外の年代はいなかった。 [参加者] ・3ページの性感染症の発生動向で、旭川市の報告数が北海道より経年的に高く、10代の女性に多いことについて保健所としてどのように分析しているか。 [事務局] ・性感染症の定点医療機関当たりの平均報告数は、札幌市も旭川市と同様に高く、都市部ほど高い傾向にあると思われる。性感染症の受診は、市外の患者が旭川市の医療機関を一定数受診しているため、患者増に影響している可能性があると思われる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに昨年よりも 10 代の割合が増加している。早い段階で正しい知識を得て適切な行動ができるよう予防対策として、今年度は出前講座を市立中学校全校で実施したり、高校以上は保健所職員だけでなく、年の近い年代の医大生が講師となり講話を実施してもらうなど普及啓発に取り組んでいる。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・医大生の協力を得ながら実施している取組の成果が、来年以降の性感染症にどのように影響してくるか注視していく必要がある。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・性器クラミジア感染症と性器ヘルペスウイルス感染症が多いように思うが、旭川市が特に多いのか、全国的に多いのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に性感染症の中で最も多いのが性器クラミジア感染症で、旭川市も多い。性器ヘルペスウイルス感染症は、治癒しても一度感染するとウイルスが潜伏するため、免疫が低下すると再活性化し再発を繰り返すこともあるため、数が多く各年代で発生報告がある。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・定点報告は実際の総数ではなく、受診した患者数を定点医療機関の数で割っているため、定点医療機関数が多ければ数下がるということで良いか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・定点医療機関の数は人口に応じて決められているので、人口規模が違って比較できるようにになっている。患者が集中する病院が定点医療機関になると影響が出てくる部分はあるが、旭川市は市保健所が設置されてから性感染症の動向を見ているが経年的に高い。性感染症と関係する人工妊娠中絶も含め、北海道では札幌と旭川が圧倒的に高い。
<p>イ 旭川市エイズ等予防対策事業について 資料 1-②に基づき事務局から説明。</p>	
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座をオンラインで実施したのは、中学校だけか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで実施しているのは中学校のみで、高校生以上は対面で実施。中学校は、市の組織内にある教育委員会と連携して全校で実施できた。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・公立高校は市内に 8 校あるが、市内全校で一斉にオンライン授業は難しいが、個別では実施可能。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの対象は中学校 1 年から 3 年までの全生徒で一斉に実施したのか。 ・対象は全 25 校の市立中学校 3 年生で、7～8 校ずつ 3 日間にわけて実施した。学校により、全学年一斉、学級毎、個別のタブレットで受講した。アンケートもタブレットで回答してもらった。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン講座の内容は、グループワークより知識や情報を伝える方が多かったか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・45～50 分間の授業枠で、オリエンテーション、講話、アンケートも実施したため、時間に限りがあり、講話は性感染症に関する正しい知識や予防を中心にクイズを交えて伝えた。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員からのアンケートで「保健で習った内容と同じ」「もう少し具体的な内容にしてもよい」という意見があったが、中学校だと規定もあるので難しいと思うが、どこまで詳しく伝えられるのか。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では保健の授業で HIV と性感染症についてはひととおり指導する。予防の仕方など教科書には直接的な表現はされていないが、予防について調べるという学習もある。今回、旭川市の現状や感染症のリスク、命に関わる部分など具体的な話が聞けたと思う。学校の先生方が聞けたのも良かったと言っていた。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会から保健所には、性感染症に関する基本的な内容を依頼されている。発展

	<p>的な内容を希望する学校には、別の講師によるメニューが準備されている。</p>
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は中学校3年生に実施したが、来年度はどのように実施していくのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、教育委員会と相談して決めていくが、3年生を対象に、オンラインの場合は生徒が飽きないようワークシートを活用する、または録画を各学校の都合の良い時に見てもらするなど、色々な工夫をしながらできると良いと考えている。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインは双方向なのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の様子は画面で確認し、人数が多いためオンライン上でのやりとりはせず、質問等がある場合は、アンケートに記入して後日回答するようにした。
	<p>意見交換「生と性を考えよう！通信」について 資料2に基づき事務局から説明。</p>
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・通信は紙で配るのか。配布後の活用方法は学校に任せるのか。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・以前の懇談会での助言を参考に、紙ではなく、データで各学校、関係機関等に配布。保健所からは、各生徒のタブレットにデータ配信していただけるよう依頼するが、学校によってはデータが一人歩きする可能性を危惧して、印刷して校内掲示にしているところもあったため、活用方法は各学校に判断してもらうことになる。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・見る側の視点として、記載順は、旭川医科大学、旭川市保健所の順で良いのか。 ・サブタイトル「あなたはこのままで大丈夫？」の表現を「あなたとパートナーのために」など優しい目線の表現にしてはどうか？
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載順や表現について、検討する。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・HIV感染からエイズ発症までの時間軸とウイルスの増殖についてグラフなどで示した方が良い。例えば、HIVに感染し、急性期の4週間、数年間の潜伏期間を経て、エイズ発症という流れを記載したり、HIV感染症の状態からウイルスが増殖してエイズを発症するため、その間に治療介入すると記載した方がイメージが付きやすいと思う。 ・症状がある場合は医療機関を受診するようにとあるが、具体的にどのような症状か記載してあると良い。 ・症状は、性的接触があってから2～4週間後に熱、咽頭痛などの風邪症状が出るが、免疫の力で一旦は症状が治まる。その後、HIVウイルスが増殖して、エイズを発症する。ウイルスが増えるスピードには個人差があり、数か月の人もいれば10年以上の人もいる。 ・出前講座のアンケート結果で10代でも感染することに驚いたという感想があったため、通信で20～30代に多いと記載すると、10代には関係ないと感じて見てもらえない懸念がある。 ・HIVに関してはU=Uだが、他の性感染症予防には、コンドームの使用は引き続き重要。U=Uだから大丈夫と自分の都合の良いように解釈されないように、正しい病気の理解と、自分やパートナーのためにとるべき行動を明確にした方が良い。 ・U=Uを強調しすぎて、薬を飲めば治るというニュアンス、安心感を与えてしまう。あくまで感染して早く治療した場合の話で、感染した人のウイルスが消えることはない。予防方法からU=Uの流れは唐突感がある。
[事務局]	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様からの御意見を参考に、見る側の誤解がないよう、全体の流れや内容を修正していく。
[参加者]	<ul style="list-style-type: none"> ・HIV検査のPCR法は早くて10日後に検出されるとのことだが、保健所の迅速検査は

[事務局]	<p>もう少し期間が長くなるのか。</p> <ul style="list-style-type: none">・迅速検査は、1～2時間後に結果がわかるという意味で、早い時期に検査可能という意味ではない。感度が良い PCR 検査でも性的接触があってから、陽性になるまでは10日位かかる。迅速検査は抗体検査なので、3か月経過しないと陽性にならない。 <p>本日の会議の記録は会議の公開規程の第5条に基づき事務局で要点記録方式で取りまとめた内容を御確認いただき、お名前は記載せずに公表することとなっておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして旭川市エイズ等対策推進懇談会を閉会します。本日はお忙しい中ありがとうございました。</p>
-------	---

